



かわいっ子

河合小だより

令和3年12月

「強く 正しく 温かく」－他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成－

文責：学校長



困っている人の役に立ちたい～2つのアプリ～

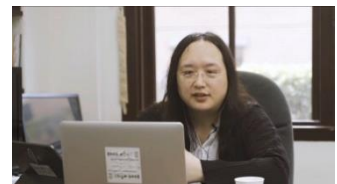
吉岡 優

「困っている人に役立ちたい」そんな人々の思いを具体化したアプリを紹介します。（これらのアプリを奨励したり、宣伝したりするものではありません。）



1つめはLINE。現在、世界で2億人以上、国内では8,800万人のユーザー（日本の人口の67%）を抱えているSNSアプリです。「なぜLINEが誕生したか」についてのお話をします。LINEは韓国の子会社が生み出したサービスですが、そもそも誕生したキッカケは2011年の東日本大震災にまで遡ります。震災発生時に電話回線が混雑して家族や友人と連絡が取れずに困っている人々の様子を見たこの会社の社員が、大切な人とのコミュニケーションに役立つツールが必要だと考えたのがキッカケだったそうです。「LINEの既読マーク」、実は緊急事態のときの「生存」を確認するためだったのです。ですから、いじめや学びのじゃまになるような使い方はだめということです。

2つめはマスクマップ。「国内でマスクが不足するのは不可避だ」。2020年2月3日、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた台湾で政府がマスクを買い上げ、実名制（本人確認）で販売することが決定され、実施までわずか3日。この状況下で見事な手腕を発揮し、世界の注目を集めたのがIT担当相の唐鳳（オードリー・タン）



[唐鳳-CNET Japan-](#)

氏です。実施の2月6日までに、タンとシビックハッカー（市民エンジニア）らは台湾全土の販売拠点でのマスクの在庫が数分ごとに自動更新されるマップを開発しました。マスクが公平に行き渡るよう可視化され、いつどこで入手可能かとの最新情報が示されたことが安心感につながり、パニックには至らず、感染拡大が阻止されました。（『台湾の奇跡』と呼ぶ）

これら2つのアプリは人への思いやりや人を助けるために開発・利活用されたもので、結果として意義のあるものとなりました。今後、Society5.0社会において、将来人の豊かな生活や幸福が追求できるDX（デジタルトランスフォーメーション）が開発されることを願ってやみません。河合小の子どもたちにはこれからいろいろなことを学ぶ中で、将来その一翼を担ってくれたらうれしいと思っています。楽しみにしています。

プレイバック！かわい小中合同体育祭2021

当初5月に予定されていた体育祭。9月当初も猛威を振るっていた新型コロナでしたが、国民の感染症対策やワクチン接種のおかげでしょうか、体育祭を地域の皆様の応援の元、盛大に開催することができました。子どもたちは持てるパフォーマンスを最大限に発揮してくれたことは言うまでもありません。



さて、10月に入って練習を始めましたが、気温が乱高下する中、子どもたちの健康状態を心配しましたが、一致団結してがんばっていて、日に日にやる気と一体感が増しているのがわかりました。そして本番。全力で走り抜けた『徒競走とリレー』。練習の成果が見られた『ダンス』。結束を実感した『大玉リレー』。小中児童生徒が一丸となった『綱引き』。どの演技も見るものを惹きつけました。

来賓、保護者、地域の皆様には寒さや少雨の中でのご観覧ではありましたが、徹底した感染症対策、譲り合っの応援にご協力いただき、体育祭を成功裏に終えることができましたこと、深く感謝申し上げます。今後ともご支援、ご協力をお願い致します。

ふれあいマラソン大会2021



27日、颯爽と駆け抜けた子どもたち。一人一人のがんばりを褒めてあげたい、そんな1日でした。今年は、8日から元気アップマラソンに全校で取り組んできました。

当日の実況をします。「スタートの号砲とともに、子どもたちは元気に走り出します。沿道には地域の方や保護者の声援が後押しをします。走り切った後は達成感に満ち溢れた顔・顔・顔。この走りを通して、で子どもたちの大きな成長が見て取れます。」どうでしょう。子どもたちのがんばる姿が浮かんできましたか？

さて、マラソンは『自分との戦い』とも言われ、また目標に向かって日々の積み重ねの大切さを実感する取組でもあります。子どもたちは本当によくがんばりました。また、PTAの方々には安全な走行を確保するため立番をしていただきました。本当にありがとうございました。というわけで年末年始、お家でもマラソン（ランニング）を続けてみてはどうでしょう。風邪やコロナに、困難に負けたくないまじい体と心を育てるために…。